

513可燃性のガスを起因物とする死傷災害事例(最大99事例まで) (2020年)

No	年	月	発生時	死傷災害事例	年齢	事故の型	小業種	労働者規模
1	2020	2	23	店舗の調理場内、ガスコンロ隣のシンク内で、卓上コンロ用のガスボンベのガス抜き作業を行っていたところ、ガスコンロから、ガスボンベのガスに引火し、顔と両腕に火傷を負った。	48	11	140201	1～9
2	2020	5	13～14	ガス漏れのためガスを吸い、嘔吐・頭痛・胃痛を負った。	51	12	140201	100～299
3	2020	7	8～9	事務所で打ち合わせをしているときに、近隣でガス爆発事故が発生し、爆風により事務室の窓が脱落し、窓が頸部を直撃して頸椎捻挫を負った。	59	14	130101	300～499
4	2020	7	8～9	休業中の飲食店舗改修現場で、何らかの理由でガス爆発が発生し、爆風による肺挫傷で死亡した。	50	14	30201	10～29
5	2020	7	8～9	2階エレベーターの扉が開き、車椅子に乗っていた入居者をエレベーターから廊下へ移動させようとした際、背後より爆風を受け、首、肩、腕の痛み、痺れがあり、頸椎を捻挫した。	32	14	130201	30～49
6	2020	7	8～9	店舗向かい側の飲食店でガス爆発事故が発生し、爆風により頭部他を負傷した。	38	14	90101	30～49
7	2020	7	8～	店舗向かい側の飲食店でガス爆発事故が発生し、爆風により右前腕部、右手を負傷した。	50	14	90101	30～

			9					49
8	2020	7	14 ～ 15	民生バルク車にガスを充填時、高圧ホースを取り出すのを忘れて車を発進させたところ、ホースが車両から外れてガス漏れが発生し、慌ててバルブを閉めようとした際、ガスを体に浴びて背中と足首に凍傷を負った。	55	11	40309	10 ～ 29
9	2020	8	14 ～ 15	工場内で、ガスの火でダイヤフラムを熱する作業をしていたところ、ガスホースに穴が開いており、不適切にテープを巻いて作業を続けていたとき、穴から漏れていたガスに火花が引火し、腹部・太腿・腕・陰部に火傷を負った。	42	11	11209	10 ～ 29
10	2020	8	15 ～ 16	嘱託社員1名が耐圧検査場前で容器の整理を行っていたところ、漏えいしたLPガスが足下に滞留して、容器同士の摩擦や接触などの原因により引火して炎上したと推定される。その際、両大腿部・両下腿部・両上肢に熱傷を負った。	68	16	11602	1～ 9
11	2020	8	9 ～ 10	整地前のヤードでの選別作業中、輸出金属のアセチレンボンベに金属加工の準備を行おうとしていた。アセチレンボンベの腐食が激しく、ガスが抜けていると思ってインパクトで穴を開けたが、ガスが残っていて作業中に破裂し、両手および腹部に全身熱傷と起動熱傷を負った。	32	11	80109	30 ～ 49
12	2020	8	15 ～ 16	利用者宅で夕食を作っている最中、火元から離れたところに大量のゴキブリが出現したため殺虫剤を噴射した。数秒後、そのガスが換気扇へと吸い込まれる際に引火し、顔、髪、右腕に熱傷を負った。	42	11	130201	10 ～ 29
13	2020	9	20 ～ 21	加工場で、製品搬送リフトの燃料（ガス）交換中、通常バルブを全閉するが、バルブを閉め忘れた状態でホースを接続した際、ガスが勢いよく吹き出し、ガスを左手（素手）で押さえた際、左手に凍傷を負った。	50	11	10602	100 ～ 299
14	2020	9	20 ～	加工場で、製品搬送リフトの燃料（ガス）交換中、通常バルブを全閉するが、バルブを閉め忘れた状態でホースを接続した際、ガスが勢いよく吹き出し、ガスを左手（素手）で押さえた際、左手に凍傷	50	11	170101	50 ～

			21	を負った。				99
15	2020	9	14 ～ 15	炉内で、アセチレンガス溶断器で地金切り作業中、滞留していたガスに火花が引火し、羽口から噴き出した炎が掛かり、頸部に熱傷を負った。	34	14	11002	50 ～ 99
16	2020	12	8 ～ 9	ガス器具の不着火通報があり、出勤し、現地にて不着火のガス器具に接続したガス管（ソフトコード）を取り外してガスが出ないことを確認した。次に上流側を点検しようとして継ぎ手を外したところ、ガスが噴出し着火源が近傍にあったため、引火し、額、右手、右膝に火傷を負った。	46	11	11602	100 ～ 299

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.html(職場のあんぜんサイト)

参考：[労働災害の分類の概要](#)

[各起因物における死傷災害事例\(最大99事例まで\)](#) (2020年) に戻る。